



2015年度  
(2015年4月～2016年3月)  
**決算の概況**

2016年4月28日



# 目次

---

2015年度決算のポイント	.....	2
連結損益計算書	.....	3
連結売上高と利益推移	.....	4
連結貸借対照表	.....	5
連結キャッシュフロー	.....	6
連結セグメント別業績	.....	7
連結セグメント別業績推移	.....	8
2016年度の連結業績予想	.....	9

## 2015年度決算のポイント

---

- 鉄鋼原料価格の下落、中国をはじめとした一部新興国の景気減速の影響などにより、連結売上高・経常利益・当期純利益は減少

・売上高	7,913億円	(前年同期比	△791億円、9.1%減)	
・経常利益	59億円	(	〃	△7億円、10.1%減)
・当期純利益	35億円	(	〃	△5億円、12.4%減)

- 自己資本比率は17.1% (前年度末実績 16.4%)

- 配当

中間 4円/株実施、年間 8円/株予定  
(前年度実績 中間 3円/株、年間 8円/株)

# 連結損益計算書

(単位:億円)

	14年度	15年度	増減額	増減率
売上高 (7/29 公表値)	8,704	7,913 (8,800)	①△791	△9.1%
売上総利益	259	265	6	
販売管理費	△191	△207	②△16	
営業利益 (7/29 公表値)	68	58 (62)	△10	△14.1%
営業外損益	△2	1	③3	
経常利益 (7/29 公表値)	66	59 (63)	△7	△10.1%
特別損益	2	△3	④△5	
法人税等	△28	△22	7	
当期純利益 (7/29 公表値)	40	35 (39)	△5	△12.4%
1株当たり当期純利益	44.88 円	39.30 円		
1株当たり配当金	8.0 円	8.0 円		

## ①売上高

単体  $\Delta 875$

・鉄鋼  $\Delta 138$

・鉄鋼原料  $\Delta 651$

・非鉄金属  $\Delta 69$

・機械・情報  $\Delta 10$

・溶材  $\Delta 7$

海外子会社  $+ 102$

(アジア+4、中国△7、アメリカ+101)

国内子会社  $+ 12$

連結調整  $\Delta 30$

計  $\Delta 791$

## ②販売管理費

単体の経費増△2、関係会社の経費増△14

## ③営業外損益

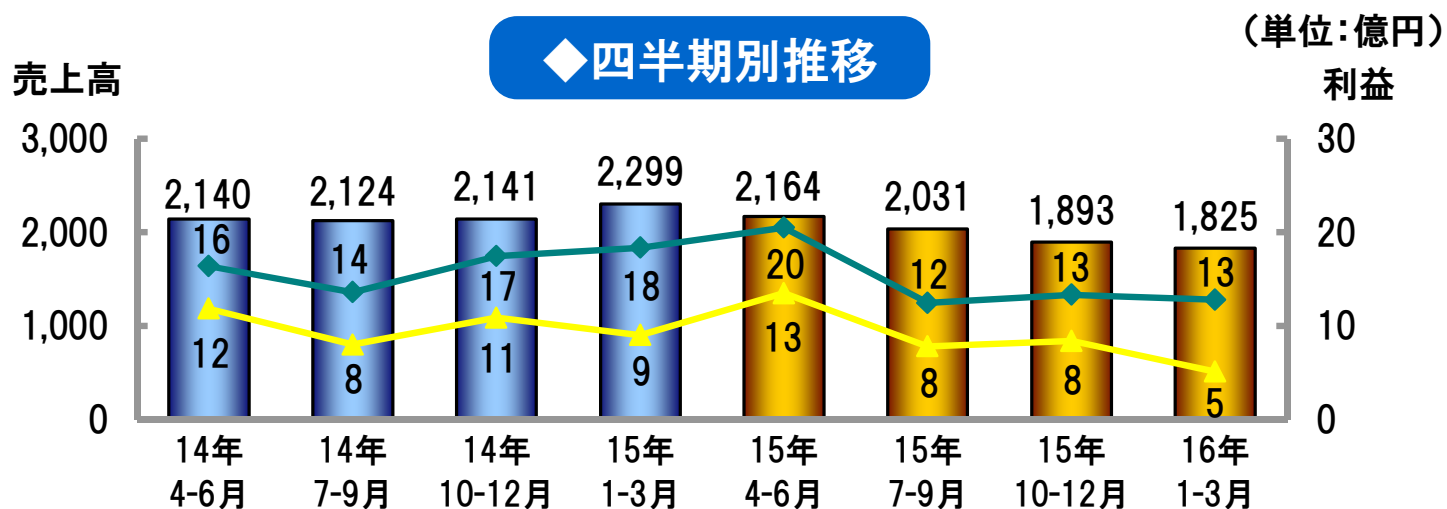
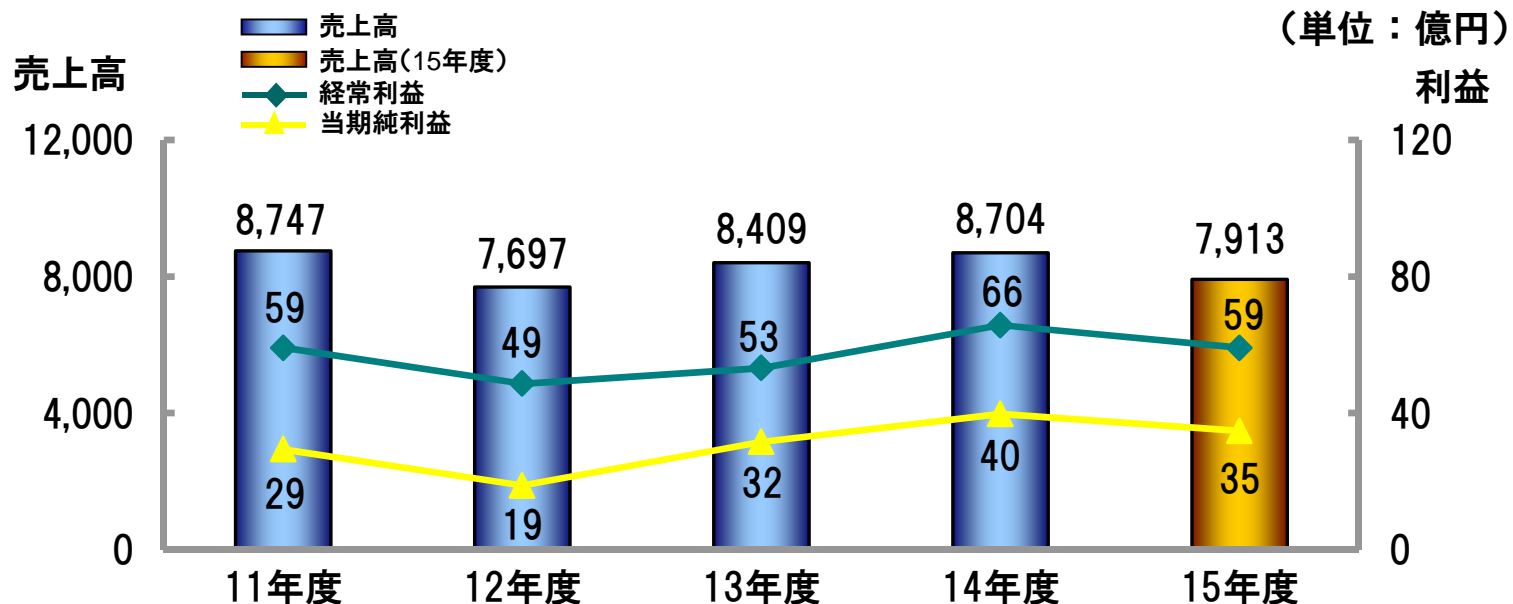
受取配当金増+2、売上債権譲渡損減+1

## ④特別損益

14年度 固定資産(土地)売却益+4、  
減損損失△2

15年度 投資有価証券評価損△2 他

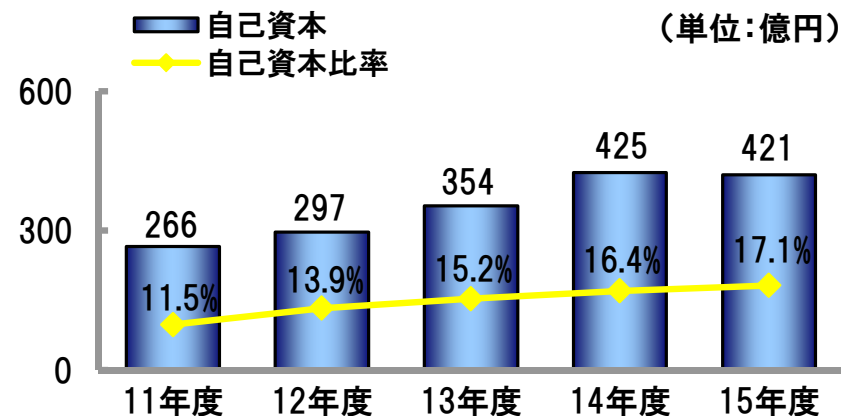
# 連結売上高と利益推移



# 連結貸借対照表

(単位:億円)

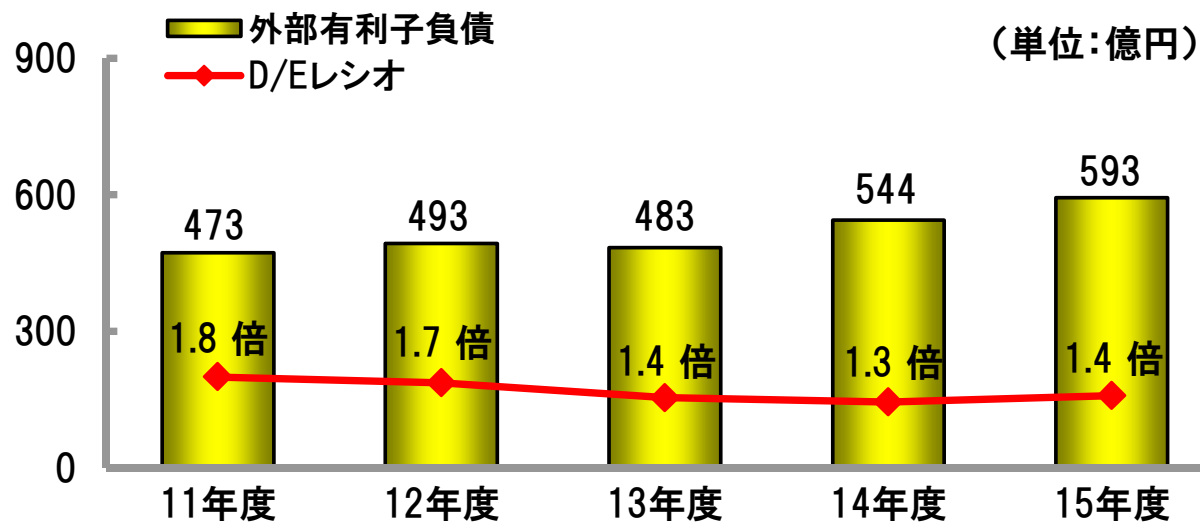
	14年度	15年度	増減額	増減の概要
流動資産	2,184	2,046	△139	売上債権 △91、前払金 △26 他
固定資産	413	410	△3	
（有形・無形固定資産	82	109	26	建屋・設備 +28 他
投資その他の資産	331	301	△30	投資有価証券 △29 他
<b>資産合計</b>	<b>2,598</b>	<b>2,456</b>	<b>△142</b>	
流動負債	1,878	1,699	△180	仕入債務 △127、預り金 △23 他
固定負債	262	305	42	長期借入金 +33 他
<b>負債合計</b>	<b>2,141</b>	<b>2,003</b>	<b>△138</b>	
自己資本	425	421	△4	利益剰余金 +27、評価・換算差額等 △31
非支配株主持分	32	32	△0	
<b>純資産</b>	<b>457</b>	<b>453</b>	<b>△4</b>	
外部有利子負債	544	593	49	
自己資本比率	16.4%	17.1%	0.8%	
D/Eレシオ	1.3倍	1.4倍	0.1倍	
1株当たり純資産	479.8円	475.4円		



# 連結キャッシュフロー

(単位:億円)

	14年度	15年度	増減額
営業活動によるCF	△17	△23	△6
投資活動によるCF	△16	△34	△18
フリーキャッシュフロー	△33	△58	△24
財務活動によるCF	+51	+46	△6
総合キャッシュフロー	+18	△12	△30



# 連結セグメント別業績

(単位:億円)

		14年度	15年度	増減額	増減率	売上高の状況
鉄鋼	売上高	2,991	2,958	△34	△1.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鋼板：国内は取扱量減少、価格も下落、輸出は価格が著しく下落</li> <li>●線材：国内は取扱量微減、輸出は取扱量増加</li> <li>◆15年度累計取扱量(単体) 215万トン (前年同期比 △1.8万トン 内、国内+3.3万トン、輸出△5.1万トン)</li> </ul>
	セグメント利益	35	31	△4	△11.5%	
鉄鋼原料	売上高	3,060	2,408	△652	△21.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>●神戸製鋼所向け輸入鉄鋼原料 ：取扱量は減少し、価格も下落</li> <li>●冷鉄源：鉄スクラップの取扱量が増加</li> <li>●チタン原料：取扱量が増加 ●合金鉄：取扱量が減少</li> </ul>
	セグメント利益	5	8	3	53.8%	
非鉄金属	売上高	2,097	2,079	△17	△0.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>●銅製品：自動車用端子材、半導体向け板条、空調用銅管の取扱量が減少</li> <li>●アルミ製品：自動車用部材、液晶製造装置用加工品の取扱量は増加、輸出用缶材、鉄道車両用部材の取扱量は減少</li> <li>●非鉄原料：銅・アルミスクラップの取扱量が減少</li> </ul>
	セグメント利益	14	12	△2	△16.3%	
機械・情報	売上高	693	650	△43	△6.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>●機械製品：大型圧縮機、金属成膜装置等の取扱いは増加、タイヤ機械、小型蒸気発電機等の取扱いは減少</li> <li>●情報産業関連：液晶用電子材料の取扱いは増加、太陽電池関連機材の取扱いは減少</li> </ul>
	セグメント利益	7	7	△1	△6.9%	
溶材	売上高	402	386	△16	△3.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>●溶接材料：国内の造船、建築鉄骨向け取扱量は増加、建設機械向けは減少、中国の化工機向けも減少</li> <li>●溶接関連機器：汎用溶接機、鉄骨溶接ロボットシステムの取扱いが増加</li> <li>●生産材料：ステンレスフープ材の取扱量が減少</li> </ul>
	セグメント利益	5	2	△3	△55.6%	
調整等	売上高	△539	△568	△29	△5.4%	
	セグメント利益	△1	△1	0	—	
連結	売上高	8,704	7,913	△791	△9.1%	
	経常利益	66	59	△7	△10.1%	

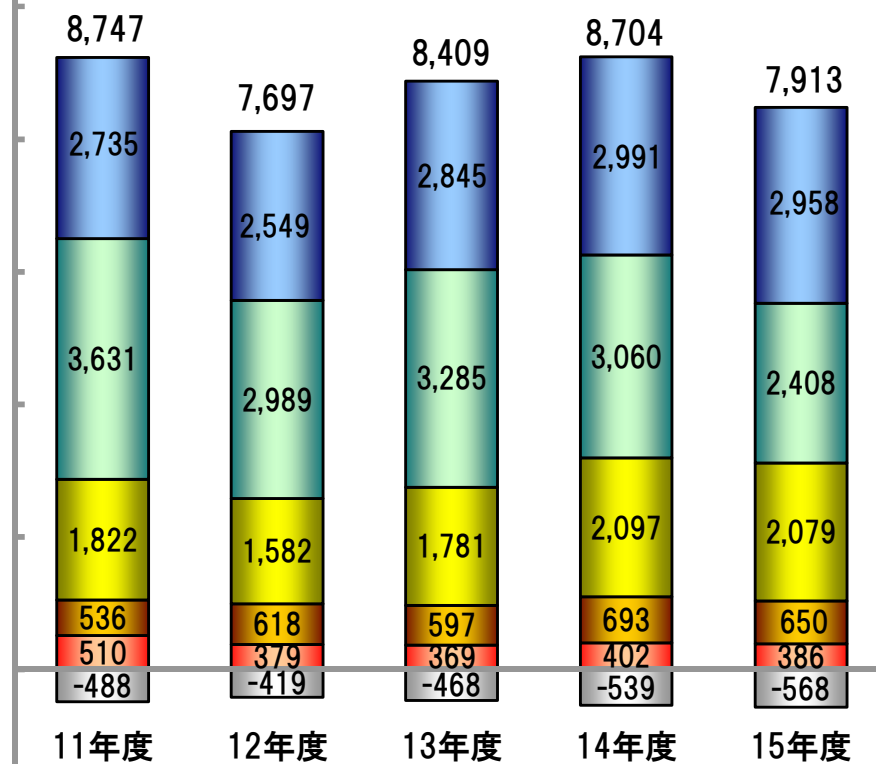


# 連結セグメント別業績推移

## 売上高

- 鉄鋼
- 鉄鋼原料
- 非鉄金属
- 機械・情報
- 溶材
- 調整等

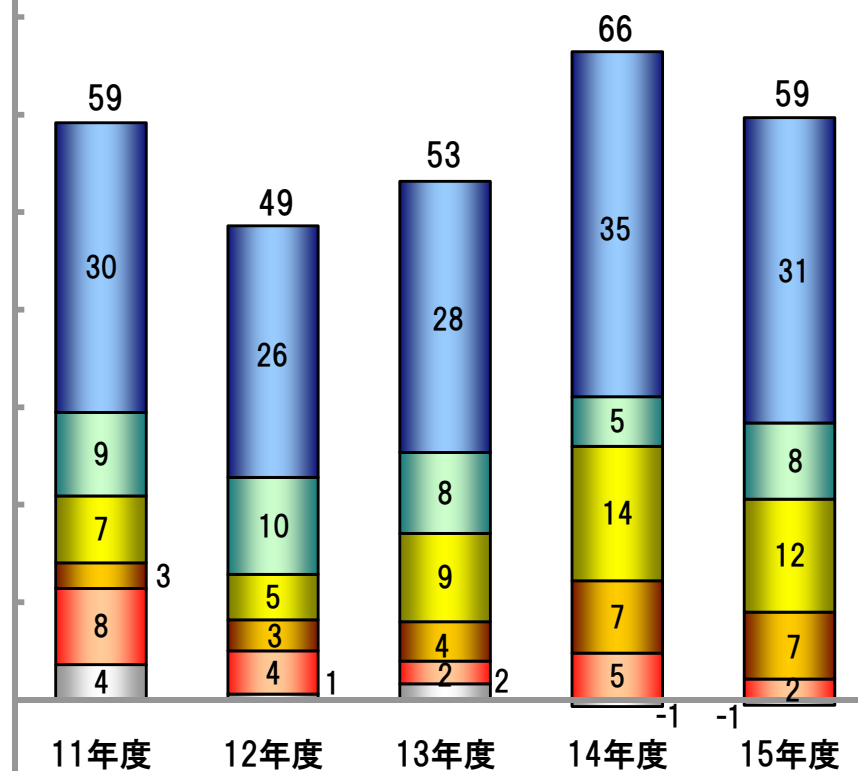
(単位:億円)



## 経常(セグメント)利益

- 鉄鋼
- 鉄鋼原料
- 非鉄金属
- 機械・情報
- 溶材
- 調整等

(単位:億円)



# 2016年度の連結業績予想

(単位:億円)	15年度	16年度予想	増減額	増減率
売上高	7,913	7,600	△313	△4.0%
営業利益	58	43	△15	△26.3%
経常利益	59	44	△15	△25.5%
当期純利益	35	27	△8	△22.4%
1株当たり当期純利益	39.30 円	30.49 円		
1株当たり配当金	(中間4.0円) 8.0 円	(中間4.0円) 8.0 円		
配当性向	20.4%	26.2%		

## ◆セグメント別

(単位:億円)	15年度		16年度予想		増減額	
	売上高	経常利益 (セグメント利益)	売上高	経常利益 (セグメント利益)	売上高	経常利益 (セグメント利益)
鉄鋼	2,958	31.3	2,940	21.0	△18	△10.3
鉄鋼原料	2,408	7.8	1,890	5.5	△518	△2.3
非鉄金属	2,079	11.6	2,160	12.0	81	0.4
機械・情報	650	6.9	780	9.0	130	2.1
溶材	386	2.1	460	3.5	74	1.4
連結	7,913	59.1	7,600	44.0	△313	△15.1

※ 調整額等の数値は表記しておりません。

---

# KOBELCO

## 神戸製鋼グループ

(注)2010年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」が適用され、セグメント別売上高を連結消去前数値に、セグメント別利益を営業利益から経常利益に変更しております。(過年度業績、15年度業績、および16年度予想)

(注)2016年度の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。